

平成 30 年 11 月 20 日

鹿大「進取の精神」支援基金学生海外派遣事業（長期派遣留学）留学終了報告書

鹿児島大学長 殿

鹿大「進取の精神」支援基金学生海外派遣事業（長期派遣留学）実施要項に基づき、下記のとおり報告します。

記

1. 報告者情報

所属/学年	理工学研究科 電気電子工学専攻 1年	性別	女
卒業/修了 予定年月日	2020年3月31日		

2. 留学の概要

留学期間	開始年月日	2018年8月20日	終了年月日	2018年10月31日
留学のタイトル	ハワイ大学での研究インターンシップ			
留学の目的と概要（実践活動部分には、下線を引いて下さい）（700字程度）				
<p>今回の留学の目的は、日頃の環境では行うことができない研究活動に参加しより専門的な知識と技術を身につけることが第一にある。また、<u>現地の語学学校に通うとともに現地の学生と研究活動を行うこと</u>によって自身の英語能力を高めることも目的としている。研究活動においては、<u>ハワイ大学の Olga 教授の研究室で研究インターンをさせていただき、バイオセンシングについての研究を行う予定である。</u>現在所属する研究室とは少しテーマが違い、私が今後やりたい研究内容に近いため、実際に研究活動に参加することで吸収できることは多くあると考えている。また、日ごろ他の研究室との交流はほとんどなく、ましてや国籍も違うため、同世代の人たちがどのような考えを持っているのか、刺激を受けることができるいい機会だと考えている。そして学んできた専門的な知識や技術、現地の人たちと交流して学んだことを研究室の人たちさらには鹿児島大学の学生や鹿児島の人々に還元できればと思っている。</p> <p>語学勉強においては、語学学校に行かない選択肢もあったが、研究活動に参加する上でより実践的な英語でのコミュニケーション能力が必要であり、研究活動をより充実したものにするため語学学校に通うことにした。できるだけ日本人学生が少ない語学学校を選択し、さまざまな国籍の人とコミュニケーションをとっていきたいと考えている。日ごろ体験することができない環境であるので、コミュニケーション能力に合わせて異文化理解にも努め、今後大事になるグローバルな考え方などを身につけたいと思う。授業だけでなく日常生活でも自ら積極的に英語でコミュニケーションをとり、少しでも自身の英語能力を高めたいと思っている。</p>				

3. 受入れ機関情報及びスケジュール

	1ヶ所目の機関	2ヶ所目の機関
国・地域	アメリカ・ハワイ州	アメリカ・ハワイ州
都市名	ホノルル	ホノルル

機関名 (英語)	University of Hawaii at Manoa	Global Village HAWAII ENGLISH CENTRE
機関名 (日本語)	ハワイ大学	グローバルビレッジ (ハワイ・ホノルル) 校
受入れ 機関 URL	https://manoa.hawaii.edu/	https://gvenglish.com/schools/usa/hawaii.html

(2) 留学期間中のスケジュール 留学月数 (2.5) ヶ月 / 授業料申請 (有・無)

年 月	留学先機関	国・地域	主な活動
2018年 8/20-10/31	ハワイ大学	アメリカ ハワイ州	研究活動
8/27-9/14	グローバルビレッジ (ハ ワイ・ホノルル) 校	アメリカ ハワイ州	語学学習

(3) 参加したプログラム (有・無) (複数選択可)

本学の協定校交換留学		本学の協定校交換 留学以外のプログラム	理工系国際コミュニケー ション海外研修
本学以外の機関に よる留学プログラム			

4. 留学の成果及びその測定方法 (300 字程度)

成果発表 (論文、作品 等)	<input type="radio"/>	単位取得	<input type="radio"/>	外国語能力	<input type="radio"/>	その他	
成果発表：帰国後、ハワイ大学での研究活動を通して得られた研究成果をまとめ、所属する研究室のゼミで発表を行う。 単位取得：理工系国際コミュニケーション海外研修の単位取得のため、帰国後、TOEIC を受験する。また今回の留学について英語で書いたレポートを提出し、英語によるプレゼンテーションと質疑応答を行う。 外国語能力：TOEIC の受験							

※当てはまる項目に○を付し、具体的に説明して下さい (複数回答可)

5. 上記 4.も含め、留学の目的がどのように達成できたか、留学で得たことは何か記述してください。

(500 字程度)

<p>今回、ハワイ大学の Olga 教授の研究室にインターンとして研究活動に参加しさまざまなことを経験することができた。まずは現在どのような研究を行っているのか、論文を見せてもらった。私が日本で行っていた研究とはテーマが少し違ったため、知らないことが多くその都度自分で学習したり、研究室の人に質問したりしながら、バイオセンシングについて理解を深めることができた。使っていたシミュレーターも違うものであったため、そのシミュレーターの使い方から学習を行った。日本でも広く使われているシミュレーターであるので、今後の研究活動においても役立つと考えられる。</p> <p>研究室のメンバーは国籍も年齢もさまざま、いろいろなバックグラウンドを持っており刺激を受けることが多くあった。始めは自分の英語に自信が無く緊張してほとんどしゃべることができなかったが、研究室の人たちの方からコミュニケーションをとってきてくれたおかげで、徐々に英語でのコミュニケーションに慣れることができた。英語を話すことはなかなか難しいが、聞くことに関してはおおよその内容を理解できるようになった。</p> <p>語学学校においては、3週間という短い間だったが英語の授業を初めて英語で詳しく受けたので、今まで日本語で受けていた授業よりも理解しやすいたところがあり、自身の英語能力向上につながったと思う。</p>
--

6. 留学後に行う鹿児島地域を活性化する活動について述べてください。(500 字程度)

今回留学するハワイは州の収入の 1/4 が観光業からなり、日本人にとっても人気の観光地である。年間約 830 万人の観光客が訪れており、日本でも有名なアラモアナ・ショッピングセンターなど大型の商業施設もあるなかで、言語や文化の異なる観光客に対してどのような取り組みや接客がなされているか調査を行った。ハワイ最大のアラモアナ・ショッピングセンターでは、日本のデパートのようにお惣菜を専門とするお店は無く、フードコートではお持ち帰りができるお店が数多くあった。お店の店員は日本人観光客が多いため日本人には日本語で接客し、メニューも日本語表示があるお店が多かった。また、ショッピングセンターには、日本語案内デスクが設置されていたり、店内の案内マップが英語と日本語での表示になっていたりした。現在、アルバイトとして働かせていただいているお店では、韓国人や中国人など海外からのお客様も多くいるが、そのようなお客様に対してどのように対応するか共通の接客マニュアルなどは存在していない。また、商品名も日本語のみの表示であるため外国人観光客からすると分かりにくいのではないかと考えられる。これらのことを含めた提案をできればと考えている。

7. 留学を今後の自分の生き方にどのように活かすか、留学成果を活用して将来鹿児島地域に貢献できることは何か記述して下さい。(500 字程度)

今回ハワイ大学に短期留学するにあたって、出発する前は不安しか無く留学するのがとても億劫になっていた。しかし、実際に行ってみると自分が想像していた以上にさまざまなことを経験することができ本当に留学できて良かったなと思えた。英語で英語の授業を受けたり、研究室の人たちとコミュニケーションを英語でとったりと自分の英語力を高める経験ができた。自分の知らない世界に一步踏み出して行くのはとても勇気のいることだが、思い切って飛び込んでみることも時には大事だなと思った。今回の留学での出会いをこれからもずっと大切にしていきたいと思う。また、研究活動に参加して学んだことも今後の自分の研究に活かしながら進めていきたいと思う。今回の留学で少しは自分の英語力を高めることができたと感じている。今後、国際学会での発表などもあるので、これからも引き続き英語を勉強していき、さらに英語でコミュニケーションがとれるようにしていきたいと考えている。チャンスがあればまた留学し、さまざまな経験ができればと思う。これから卒業まで研究活動に邁進し、鹿児島大学、さらには鹿児島に貢献していきたいと考えている。また、6.で述べた活動を通して鹿児島地域に貢献できればと考えている。

平成 31 年 1 月 29 日

鹿大「進取の精神」支援基金学生海外派遣事業（長期派遣留学）
留学後地域活性化報告書

鹿児島大学長 殿

鹿大「進取の精神」支援基金学生海外派遣事業（長期派遣留学）実施要項に基づき、下記のとおり報告します。

記

1. 報告者情報

所属/学年	理工学研究科 電気電子工学専攻 1年	性別	女
卒業/修了 予定年月日	2020年 3月 31日		

2. 留学後の鹿児島地域を活性化する活動の概要を、留学の成果との関係がわかるように記述してください。(700字程度)

【活動のタイトル】

【活動の期間】 2019年 1月 10日 ～ 2019年 1月 12日

【活動の概要】

今回留学したハワイは州の収入の1/4が観光業からなり、日本人にとっても人気の観光地である。年間約830万人の観光客が訪れており、日本でも有名なアラモアナ・ショッピングセンターなど大型の商業施設もある。そこで今回の留学を通して、それらの商業施設で言語や文化の異なる観光客に対してどのような取り組みや接客がなされているか調査を行った。ハワイ最大の商業施設となるアラモアナ・ショッピングセンターでは、日本のデパートのようにお惣菜を専門として販売するお店は無く、フードコートにおいてはお持ち帰りができるお店が数多くあった。お店の店員は日本人観光客が多いため日本人には日本語で接客し、メニューも日本語表示があるお店が多かった。また、ショッピングセンターには、日本語案内デスクが設置され日本人が対応していたり、店内の案内マップが英語と日本語での表示になっていたり日本人への対応が充実していた。最近では鹿児島でも外国人観光客をよく見かけるようになった。現在、アルバイトとして働かせていただいているお店では、韓国人や中国人など海外からのお客様も多くいるが、そのようなお客様に対してどのように対応すればよいか共通の接客マニュアルなどは存在していない。また、商品名も日本語のみの表示であるため外国人観光客からすると分かりにくいのではないかと考えられた。そこで今回、それらのことをふまえ、英語を含めた外国語での接客マニュアルを作成すること、商品名や原材料名などを外国語で記載したメニュー表を作成することをお店側に提案した。また現在、百貨店においては外国人観光客に対してどのような対応を行っているか調査を行った。

3. 鹿児島地域を活性化する活動の成果と今後の課題と展望について述べてください。(700字程度)

今回、アルバイトとして働かせていただいているお店において外国人観光客に対しての接客マニュアルや外国語のメニュー表の作成を提案させていただいた。ハワイでは日本人観光客が多いため、店員が簡単な日本語を使って接客を行っていたり、日本語のメニューがあることなどを紹介し、私の提案を受けてお店側の社員の方々とさまざまな意見交換をすることができ有意義な時間となった。外国語に対してネガティブな気持ちを抱いてしまう日本人がほとんどだと思うが、最初からマニュアルを作って対応することができれば何も心配することはないと思う。まだ今回の提案を実行に移すことはできていないが、今後、また社員の方々と議論も行い、それをふまえて実行に移すことができればと考えている。私の働いているお店は百貨店の中の一店舗であるが、百貨店では外国人観光客に対してどのような対応を行っているのか調査も行った。ここ最近、韓国人や中国人のお客様が多くなっているため、それらの言語が話せるガイドを起用していることがわかった。しかし、外国人観光客が増加しているなかで、ガイドが対応できる人数は限られており、また今後ガイドを増やすことを考えたとき、費用が大きくなってしまふことが考えられる。百貨店側の負担も考えると、今回の提案を実行し百貨店全体にこの取り組みが広まっていくといいと思った。今後、ますます外国人観光客を鹿児島に呼び込むためにも、外国人観光客への対応を充実させることは重要なことであり、今回の提案はいい方法だと思う。そして、外国人観光客の増加が鹿児島地域を活性化することにつながると考えられる。